

## Go For 2020 全国知的障害特別支援学校サッカー普及大会 2019 報告（委託事業完了報告書 提出時用）

- 1 2019 年大会 目的
- 2 2019 年大会 成果
- 3 開催要項
- 4 役員一覧
- 5 大会結果

---

### 1. 2019 年大会 目的

この度は、文部科学省スポーツ庁委託事業として「Go For 2020 全国知的障害特別支援学校サッカー普及大会 2019」（以下、「本大会」と呼ぶ）を昨年に続き多くの方のご協力のもと、開催させていただきましたことを深く御礼申し上げます。

本事業は、「第 3 回全国知的障害特別支援学校高等部サッカー選手権」（以下、「選手権」と呼ぶ）との共催で実施いたしました。選手権は全国の特別支援学校サッカー一部の頂点を決める大会として 2016 年 2 月から藤枝市で開催しております。

選手権は、特別支援学校のサッカー一部に所属する生徒が目標とする唯一無二の大会として選手、指導者は非常に深い思いでいます。

一方で、選手権の予選会に参加している学校数は 13 都府県 79 校。この背景には、前年の 15 都府県 78 校から参加都道府県が 2 減、参加校は 1 増という状況があります。

こういった状況にたいして、本大会は、前回開催時に普及委員会を設け、選手権参加ができない都道府県から委員を招聘し、大会視察と地域の実情をヒアリングするための「普及委員意見交換会」を開催いたしました。

それらを踏まえ、本大会は準備段階から以下の目的を持ち開催を行いました。

#### ■本大会の目的

- ① 単独校参加が難しい地域に対し、準備から積極的に関わり、複数校の合同チームでの参加を実現する。
- ② 複数校での合同チーム参加が可能な地域の指導者を普及委員として招聘し、将来的な大会参加につなげる。
- ③ 本大会への参加は学校関係者や保護者、地域の理解が必要になる。将来的な参加に向けた理解をいただくための映像を通した報告書を作成する。
- ④ そのほか、大会の価値を高め、特別支援学校におけるスポーツ環境が向上するための施策を練り、実施する。

## 2. 2019 年大会 成果と課題

本大会における成果と新たに浮き彫りになった課題を以下の通り報告いたします。

### ■本大会の成果

#### ① 福岡県立特別支援学校福岡高等学園が選手権に参加

これまで選手権も含めて参加が難しかった福岡県から福岡県立特別支援学校福岡高等学園が予選を勝ち抜き、選手権に参加しました。

この背景には、昨年の本大会に福岡県から普及委員を招聘し、大会視察、意見交換を行った結果、同校内での選手権大会への理解が進み、また、保護者や地元企業の協力により、大会参加のための費用が集まったことにより、予選会への参加が実現。

福岡県内での知的障がい者サッカーは近年、社会人も含めた練習環境が向上、指導者の数も増えているため競技力は向上してきている。そういった状況は同校がもともと高い競技力を有していたため、九州予選を勝ち抜き、選手権へ進出しました。

このことは全国で選手権に参加できる可能性がある競技力を有しながらも、さまざまな事情により大会参加がかなわない学校があることわかっただけでなく、参加実績を作ることが出来たため、今後、同様の事情を抱え参加がかなっていない特別支援学校に対して、参加に向けた具体的なプロセスを提示できる成果となった。

#### ② 石川県選抜チームが本大会に参加

全国の特別支援学校のサッカー部では、11人制サッカーを行うための部員不足、指導者不足、また、大会参加のための資金面、周囲の理解など多くの課題を抱えています。このような状況に対して、本大会の最大の取り組みは、複数校による合同チーム参加を実現することにあります。

それに対して本大会では、石川県が石川県立いしかわ特別支援学校を中心に、同県内の特別支援学校のサッカー部の生徒も含めた選抜チームを結成し、大会参加が実現しました。主な要因は以下の通りです。

(参加における主な要因)

- ・2018年第18回 全国障害者スポーツ大会 福井しあわせ元気大会が隣県で開催されるにあたり、石川県内の高校生が石川県チームに参加し、合同練習を行っている環境があったため。
- ・石川県立いしかわ特別支援学校がサッカーに対して積極的な姿勢があり、同校ではサッカー部の活動があったため。
- ・前年の本大会に石川県立いしかわ特別支援学校から教員2名を普及委員として招聘し、本大会の視察を行った。特に大会の雰囲気やそこでプレーする生徒の姿に共感した小下寛史氏が強い熱意をもって、長い時間をかけて大会運営サイドと調整を図り、各学校長を説得し、企画立案、寄付も含めた資金の確保に奔走したため。
- ・地元の総合型スポーツクラブの協力により、継続的な合同チームが練習する場所が確保されたため。  
※来年度以降もスポーツクラブとの連携を行い練習場所の確保だけでなく、卒業後もサッカーができる

環境が整備されていく予定です。

### ③ 高校生が運営に参加。選手との交流を推進。

本大会では、開催地にある私立藤枝明誠高等学校の生徒会と連携を開始しました。大会の事前準備から大会運営（大会本部、受付、放送、試合運営、チアリーディング、ブラスバンド）に 60 名以上の生徒が参加しました。

普段交流の少ない知的障がいを持つ選手たちのサッカーをプレーする姿を目にし、また受付や試合運営などを通して、実際に交流する場面が多くありました。

このことは「懸命に部活動を取り組み、試合に勝利するために懸命にプレーする」という自分たちと変わらぬ高校生の姿があることを身をもって知る機会を創出し、各自に経験と気づきをもたらすことにつなげることが出来ました。

## ■本大会の課題

### ① 秋田県選抜チームが参加検討も不参加

本大会は、石川県だけでなく、秋田県も合同チームでの参加の可能性があります。しかしながら実現することはできませんでした。

合同チーム結成には、大会参加の費用が少なくないこと、県内各地の選手が集まれる場所があること、複数校をまたいで選手指導を行う環境と学校内の理解などクリアしなければならない課題があります。今年の本大会に向けては、参加がかないませんでした。秋田県からは普及委員を招聘し、参加が実現できた石川県から招へいた普及委員と意見交換する場を設けました。

将来的な参加に向け、引き続き本大会運営も秋田県の大会参加に向けたサポートをしてまいります。

全国的な複数校での参加を拡大するために、参加のためのハードルを整理し、課題解決方法の事例を具体的に示していくことが必要不可欠であることが浮き彫りになり、本大会を通じて課題解決の実践を図ってまいります。

### ② 部活動継続における 11 人制サッカーの課題

11 人制サッカーの部活動は指導者や控え選手も含め、20 人以上が関わることで部活動継続が可能になります。

しかしながら、単独校で 11 人の生徒が参加し部活動を行うことは、生徒の希望、競技レベルなどで難しいケースが全国的に見受けられます。また、合同チームにおいても、平素から 11 人制サッカーに対して関心を持たない限り、選手の参加は難しい背景があります。

本大会は今後も 11 人制サッカーを継続する予定ではありますが、少ない人数での参加ができる競技。また、高い運動能力が要求される 11 人制ではなく、小さなコートでプレーすることで参加ができる競技として 8 人制サッカーやフットサルの検討を具体的に行う必要があることが浮き彫りになりました。

### 3. Go For 2020 全国知的障害特別支援学校サッカー普及大会 2019

#### 開催要項

##### 1 目 的

知的障害者特別支援学校高等部の部活動の普及・促進に寄与する全国大会とする。  
知的障害者のスポーツ促進、生涯学習の環境作りと推進に寄与する。

##### 2 内 容

特別支援学校へのスポーツの普及・実施は未だ大きな地域差があるのが現状である。全都道府県が参加する高校選手権開催を目指し、サッカー部活動がすでに行われているチーム同士の交流を行い、部活動のより一層の活性化を目的とした交流大会を開催。

また、未だ十分な普及がなされていない地域においては、サッカーの普及と将来的な部活動の実施を目的とした普及大会を開催する。その実施においては健常者との交流も積極的に促していく。

##### 3 事業委託元 文部科学省スポーツ庁

※当事業は文部科学省スポーツ庁委託事業となります。

各所では「文部科学省スポーツ庁委託事業」の記載をお願いいたします。

##### 4 受託団体 Go For 2020 全国知的障害特別支援学校普及大会実行委員会

構成団体：特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟  
藤枝市  
全国特別支援学校知的障害教育校長会  
特定非営利活動法人静岡県 FID サッカー連盟

##### 5 主 管 上記構成団体

##### 6 後 援 公益財団法人日本サッカー協会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、一般社団法人日本障がい者サッカー連盟、スペシャルオリンピックス日本静岡県、静岡県教育員会、一般財団法人静岡県サッカー協会、公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会、静岡県特別支援学校長会、静岡県知的障害者福祉協会、静岡県手をつなぐ育成会、藤枝市教育委員会、静岡新聞社・静岡放送

##### 7 期 日 平成 31 年 2 月 17 日（日）

##### 8 会 場 藤枝総合運動公園サッカー場人工芝グラウンド及び周辺

##### 9 全国交流大会実施概要

###### ■競技会参加資格

- ①特別支援学校在学中の生徒（知的、精神、聴覚）。
- ②所属する学校長の認めた生徒。
- ③年度内の健康診断で運動に制限がないことを所定の用紙を使って、学校長名で証明できる生徒。特別な配慮については、事前に連絡すること。

④選手・スタッフ共にスポーツ傷害保険に加入していること。

#### ■チーム構成

特別支援学校のサッカー部による 11 人制サッカーチーム

#### ■チーム結成・大会組合せ

別紙参照

#### ■大会出場にかかる費用（概算／予定）

- ・チームエントリーフィー 1 チーム 無料
- ・お弁当代 1 食 800 円×2 食（参加者負担）

#### ■参加方法

選手権大会敗退チームおよび公募による

※特別支援学校校長会の承認を得る

#### ■参加者による報告会

本大会を通して、より多くの特別支援学校に通う生徒・教員、関係者のスポーツへの関心を高めるため、本大会の参加者は、大会参加後に所属の特別支援学校で、生徒や教員、関係者へ向けた報告会を開催することを義務付ける。

#### ■その他

- ①本大会へ参加する方については、閉会式及び競技中において、大会本部より許可された報道関係者または主催者における新聞やテレビ放映のための写真撮影、VTR 撮影等について、了承した上で参加をお願いします。ただし、個人写真の使用、個人にインタビュー等については、事前に承諾の確認を取ります。
- ②ホームページや SNS に、大会要項、試合結果、参加者が被写体として写り込んだ写真が掲載されることがあります。
- ③出場選手の大会期間中の健康ならびに生活指導については各チーム監督の責任において遺漏のないように処置すること。  
特に、健康管理、食生活指導については、十分留意すること。
- ④学校及び家庭における事前の健康観察を十分にすること。
- ⑤各自「健康保険証」（写）を持参すること。

#### ■競技規則

（公財）日本サッカー協会競技規則 2017/18 に準じ、実行委員会の申し合わせ、競技会規定および競技実施要綱により実施する。

[http://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/lawsofthegame\\_201718.pdf](http://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/lawsofthegame_201718.pdf)

#### ■競技会規定

##### 1 競技のフィールド

フィールド表面は平坦で常緑な天然芝又は人工芝であり、ピッチサイズは原則 105m

×68mであること。

## 2 ボール

試合球は5号検定球とし、マルチボールシステムで実施する。

※試合球の詳細な型番は分かり次第後日連絡します。

## 3 競技者の数と交代

①競技者は11名以下とし5名までが交代出来る。

②登録選手は20名までとし、ベンチへはその20名が入れる。大会エントリー用に登録している選手で、メンバー提出用紙に記入されている者に限る。

③試合開始前に11名の先発選手と9名以内の交代要員氏名と背番号をメンバー表にて通告しておき、そのうち5名までが試合の停止中に主審の許可を得て交代できる。

④交代した選手が再度ピッチに入ることは出来ない。

⑤てんかん等の障害による交代は別枠として常時可能とするが、交代した選手は当該試合に出場できない。(この場合は6名以上の交代が可能になる)

※事前にてんかん発作がある旨を別紙安全資料に記載し証明しておくこと。

## 4 役員の数

ベンチには6名まで入れるがテクニカルエリアには1名のみ入れることができる。

## 5 警告

大会中、2回の累積警告を受けた競技者は、次の1試合に出場できない。

大会中、退場処分を受けた選手の出場停止処分は実行委員会内のフェアプレー委員会で決定するが、「同一大会」における直近の試合に適用される。

ただし、同一大会内で消化しきれない場合は、大会終了時点で消化したものとする。

## 6 ユニフォーム

原則として(公財)日本サッカー協会ユニフォーム規定に基づいたユニフォームを使用しなければならない。 <http://www.jfa.jp/documents/pdf/basic/br22.pdf>

正・副2色を用意し、監督者会議(MCM)で当該チーム監督及び審判の協議により着用ユニフォーム(ビブス)を決定する。

アンダーシャツやスパッツを着用する際は、それぞれユニフォームやパンツと同色を使用すること。(ソックスと同色ではない)

## 7 試合形式

試合時間40分(前・後半20分)

### ■競技実施要綱

#### 1 開・閉会式

①開会式は行わない。

②閉会式(表彰式)は決勝戦終了後に行う。

#### 2 招集

①試合毎に、メンバー表(11名の出場選手と9名の交代選手)を試合開始前までに、

競技本部に提出する。用紙は、指定の様式を使用すること。合わせてユニフォームの確認も行う。

- ② 召集時刻は、原則として試合開始 5 分前に本部テント前に集合し、審判によるチェックを行う。

### 3 監督者会議

各試合前に監督者会議（MCM）を行う、詳細な試合開始時間の決定、審判員の確認、出場選手の確認、ユニフォームの確認、試合会場の安全の確認（安全が確保できなければ試合の中止を決定できる）を行う。

### 4 その他

- ① ベンチは、組合せ表の番号が若いチームをピッチに向かって左側とする。
- ② 競技場内では、選手、監督、コーチ、大会役員、競技役員、実施本部員及び主催者が認めた関係者（マスコミ等）以外入場することができない。（ただし、付添者については、別途考慮することがある。）
- ③ 大会参加者の大会開催中における傷病、競技中のけがについては、本部にて応急処置を行う。病院への搬送等については各チームで行う。傷害保険には、チームで必ず加入すること。（病院の紹介は行います。）
- ④ 雨天時の取り扱い…原則として実施する。  
荒天等により試合時間の変更や中止となった場合は、本部より各チームの連絡担当者へ午前 6 時まで連絡をする。
- ⑤ 大会要項に規定されていない事項については実行委員会において協議の上決定する。

### 5 表彰

- ① 優勝チームは表彰式でその栄誉を称える
- ③ 参加全チームに記念品を贈呈するものとする。

## 4 役員一覧

### ■大会会長

竹内 浩三（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 理事長）

### ■実行委員長

斎藤 紘一（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 理事）

（一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 理事）

### ■大会役員

天野 直紀（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 事務局長）

小澤 通晴（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 技術委員長）

竹内 良平（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 医事委員長）

宮本 勇太（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 フットサル委員長）

勝又 将也（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 総務担当）

（特定非営利活動法人静岡FIDサッカー連盟 理事長）

瀬戸脇正勝（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 顧問）

（特定非営利活動法人静岡FIDサッカー連盟）

### ■大会運営委員

神谷 博（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 北海道担当）

稲葉 政行（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 関東担当）

永井 勇（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 東海担当）

長野 博光（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 関西担当）

本城 彰（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 中国担当）

徳増 五郎（特定非営利活動法人静岡FIDサッカー連盟）

### ■大会普及委員

津島 直樹（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 普及委員長）

阿部 史憲（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 東北担当）

安相 善博（福島県知的障がい者サッカー選抜スタッフ）

石川 雄太（秋田県知的障がい者サッカー選抜スタッフ）

中野渡 峻也（宮城県知的障がい者サッカー選抜スタッフ）

辰巳 義和（FC. TON 石川県内総合型スポーツクラブ 代表）

小下 寛史（石川県立いしかわ特別支援学校 教諭）

小坂 夏生（石川県立いしかわ特別支援学校 教諭）

### ■記録委員

内田 和稔（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟）

市毛 利治（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟）

佐藤 亜紀（特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟）

上田 透（特定非営利活動法人静岡FIDサッカー連盟）

山本 剛史（特定非営利活動法人静岡FIDサッカー連盟）



## 5 大会結果

優勝 福岡県立特別支援学校福岡高等学園

準優勝 大阪府立たまがわ高等支援学校

### ◎決勝戦

大阪府立たまがわ高等支援学校 0 - 1 福岡県立特別支援学校福岡高等学園

### ◎準決勝

大阪府立たまがわ高等支援学校 4 - 0 石川県知的障害特別支援学校選抜チーム

福岡県立特別支援学校福岡高等学園 2 - 0 岐阜県立本巣特別支援学校

### ◎1回戦

福岡県立特別支援学校福岡高等学園 5 - 0 長崎県立希望が丘高等特別支援学校

大阪府立たまがわ高等支援学校 2 - 1 大阪府立なにわ高等支援学校

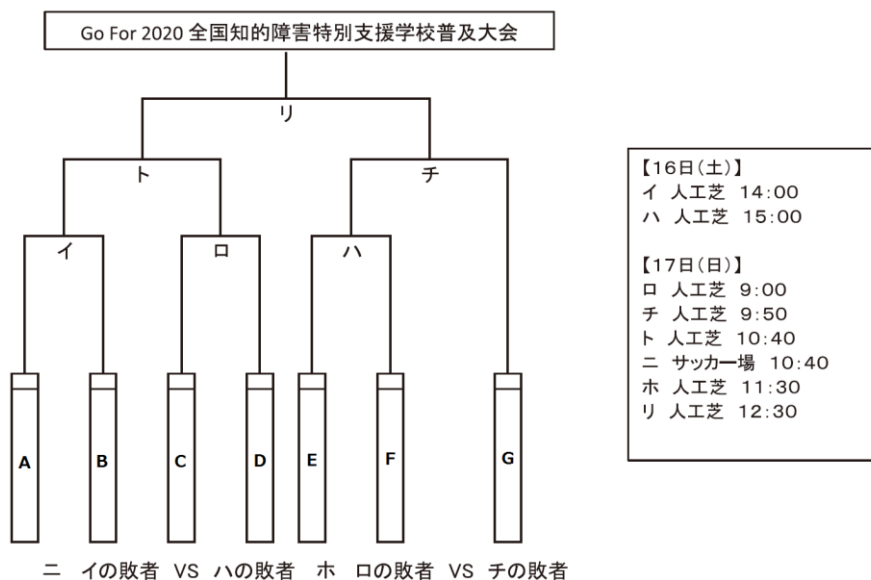
静岡県立藤枝特別支援学校焼津分校 0 - 2 石川県知的障害特別支援学校選抜チーム

### ◎交流試合

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校 2 - 0 静岡県立富士特別支援学校富士宮分校

大阪府立なにわ高等支援学校 0 - 0 (PK 4 - 3) 長崎県立希望が丘高等特別支援学校

### 大会組み合わせ



- A 大阪府立たまがわ高等支援学校
- B 大阪府立なにわ高等支援学校
- C 静岡県立藤枝特別支援学校焼津分校
- D 石川県知的障害特別支援学校選抜チーム
- E 福岡県立特別支援学校福岡高等学園

F 長崎県立希望が丘高等特別支援学校

G 長崎県立希望が丘高等特別支援学校